

■琵琶湖沿岸部の内水排除施設について

資料27追加

琵琶湖沿岸においては、以下の内水排除施設が存在する。

- ①琵琶湖総合開発事業において設置されたもの（水資源機構管理）
- ②干拓事業において設置されたもの（土地改良区管理）
- ③その他（自治体管理）

①琵琶湖総合開発事業において設置されたもの（水資源機構管理）

以下の内水排除施設は、既往第二位（昭和36年6月）洪水＝1/30確率2日雨量を対象に、浸水時間の短縮を目的として設置されている。なお、流出計算は、特性曲線法^{※1}を用いた。

地区		流域面積 km ²	ポンプ容量 m ³ /s	計画雨量 mm ^{※2}
安曇川	針江（はりえ）	3.4	5.0	<u>251</u>
	入道沼（にゅうどうぬま）	4.2	3.0	<u>251</u>
	金丸川（かなまるがわ）	5.3	4.0	<u>261</u>
	堀川（ほりかわ）	5.7	5.0	<u>261</u>
守山	津田江（つだえ）	12.2	4.0	<u>256</u>
	赤野井（あかのい）	20.9	6.0	<u>256</u>
近江八幡	安治（あわじ）	4.5	1.0	<u>245</u>
	野田（のだ）	3.0	1.0	<u>246</u>
	鯛場（えりば）	6.5	1.0	<u>246</u>
大同川	大同川（だいどうがわ）	31.5	36.0	<u>312</u>
	稲枝（いなえ）	12.4	6.0	<u>308</u>
米原	磯（いそ）	0.9	1.1	<u>380</u>
	米原（まいばら）	7.2	7.0	<u>380</u>
早崎	早崎下八木（はやさきしもやぎ）	4.9	4.0	<u>380</u>
計		122.6	84.1	

※1 特性曲線法とは、流域を各1本の流路を持つ^{くけい}矩形の小流域に分割し、各流域の斜面及び流路はそれぞれ一様の粗度と過程し、運動と連続の方程式に基づいて流れを水理学的に追跡するものである。

※2 前回提示資料に追加

(滋賀県提供資料)

②干拓事業において設置されたもの(土地改良区管理)

河川名	名称	集水面積 km ² ※3	ポンプ容量 m ³ /s	ポンプ径 φ mm	計画対象降雨 及び雨量確率
水 荃 干 拓 大幹線排水路	水 荃 干 拓 排 水 機 場	3.0 km ²	7.55 m ³ /s	φ 500×2 φ 800×5	3日 191mm 1/10
津 田 干 拓 排 水 機 場	北 津 田 排 水 機 場	1.2 km ²	6.03 m ³ /s	φ 300×2 φ 600×1 φ 800×1 φ 1200×1	1日 155.9mm 1/10
大中の湖干拓	大 中 干 拓 排 水 機 場	12.3 km ²	21.56 m ³ /s	φ 800×2 φ 1200×6	3日 200mm 1/10
小中の湖干拓	小 中 干 拓 排 水 機 場 ※4	4.1 km ²	3.00 m ³ /s	φ 500×2 φ 800×4	1日 136.7mm 1/10
曾根沼干拓	曾根沼干拓 排 水 機 場	1.06km ²	2.866 m ³ /s	φ 400×2 φ 700×2	1日 197mm 1/20
松原干拓	松原干拓 排 水 機 場	0.73km ²	0.4599 m ³ /s	φ 550×2	3日 222mm 既第2位雨量
入江干拓	入江干拓 排 水 機 場	3.12 km ²	7.1 m ³ /s	φ 800×5 φ 600×1	3日 248mm 1/20
早崎干拓	早崎干拓 排 水 機 場 ※4	2.61 km ²	1.27 m ³ /s (干拓地内利用) 1.42 m ³ /s (干拓地外利用) 0.35 m ³ /s (干拓地内用 排水兼用)	φ 750×1 φ 800×1 φ 400×2	(干拓地内) 1日 191mm 1/20

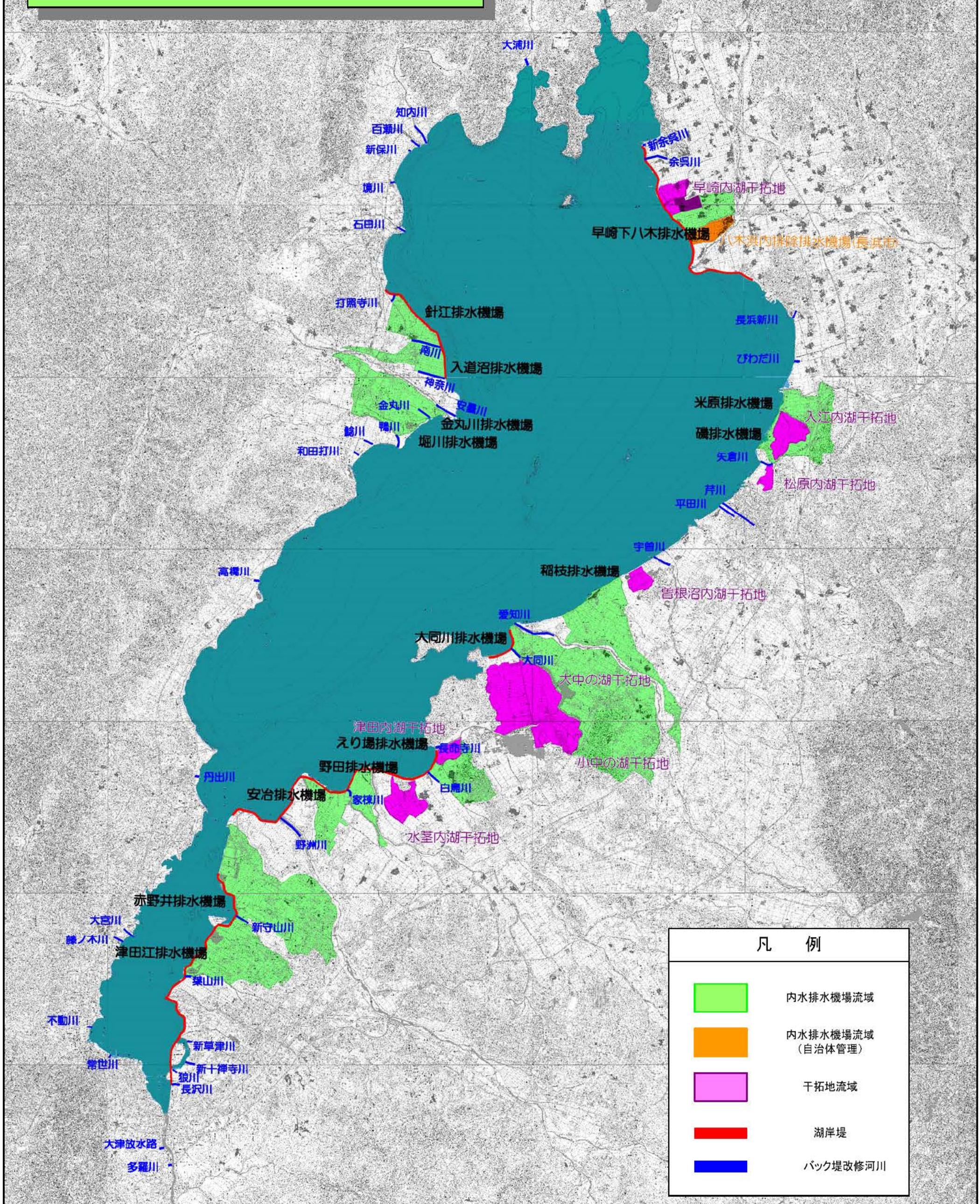
※3 下線部分は、前回(H18.11.21)提示資料を修正した箇所






※4 図面において、範囲を修正

③その他(自治体管理)

八木浜地区	八木浜内排除 排 水 機 場	1.95 km ²	0.6 m ³ /s	φ 600×2	—
-------	-------------------	----------------------	-----------------------	---------	---

琵琶湖沿岸 施設整備状況図



凡 例	
	内水排水機場流域
	内水排水機場流域 (自治体管理)
	干拓地流域
	湖岸堤
	バック堤改修河川